隔日刊
食品新聞
発行所 食品新聞社
https://www.shokuhin.net/
大阪市北区西天満5－10－17
郵便番号 530－0047
電話 06（6361）4972㈹
東京都中央区入船1－9－8
郵便番号 104－0042
電話 03（3552）3756-4031
名古屋市中区丸の内2－10－11
リブラ丸の内6 305号
郵便番号 460－0002
電話 052（221）5391㈹
（支）局）広島・福岡
© 食品新聞社 2020
THE JAPAN FOOD NEWS
購読料 半年33,346円

Bull-Dog
ソースはやっぱり
ブルドック

4月 チャネル別動向 内食シフト鮮明に

既存店9.5％増 食品に需要殺到

4月のチャネル別動向がまとまった。内食需要の増加でチェーンストア、食品スーパーの食品販売額は1割増と伸長した一方、外食は4割減、百貨店は7割減と大打撃を受けた。

チェーンストア

4月度のチェーンストア総販売額（56社1万770店）は、全店ベースが前年比95・5％（1兆162億4千982万円）、既存店ベース95・5％。

緊急事態宣言発出に伴う内食需要増により、食品は全店108・7％（7千460億7千69万円）、既存店109・5％と伸長したが、販売構成比の約2割を占める住関品が全店86・4％、既存店85・8％と低迷。販売構成比が3％とはいえ、衣料品も全店45・7％、既存店46・3％と落ち込んだ。

食品の内訳は、その他食品（加工食品・酒類）が全店109・5％（3千963億7千532万円）、既存店110・8％、惣菜が全店93・6％（796億4千233万円）、既存店92・8％と明暗。生鮮3品の既存店伸長率は、農産115・4％、畜産品118％、水産品105・7％といったように、素材物が好調に推移した。

その他食品では、巣ごもり、内食ニーズや健康意識の高まりなどを受け、米、乳製品、ヨーグルト、乳酸菌飲料、パスタ関連、ピザ類、中華麺・乾麺、インスタントラーメン、カレー・スープ類、冷凍食品、はちみつ、納豆、豆腐、漬物、缶詰、小麦粉、製菓材料、ホットケーキミックス、シリアル、調味料、レギュラーコーヒー、菓子類、酒類などが好調だった。

一方、惣菜については、要冷惣菜は堅調だったが、温惣菜の苦戦がマイナス要因となった形。在宅勤務の機会増なども背景に、家庭内での調理機会が増えたことで、生鮮品の需要が増加し、その影響で温惣菜の需要に影響を与えたものと見られる。

食品スーパー

既存店10・7％増

全国スーパーマーケット協会、日本スーパーマーケット協会、オール日本スーパーマーケット協会の食品スーパー3団体による4月の売上高（集計企業数270社）は、全店12・3％増、既存店10・7％増となった。

食品は全店14・4％増、既存店12・5％増。既存店の各部門は次の通り。青果15・8％増、水産7・2％増、畜産18・9％増、生鮮3部門計14・6％増。惣菜4・7％減、日配14・7％増、一般食品14・8％増、非食品6・1％減、その他8・6％減。

一斉休校や在宅勤務で家庭内需要が大幅に増加し各部門とも好調だったが、惣菜は、ばら売り中止や行楽需要の低迷に加えて、仕事帰りに惣菜を買う客が減少するなど、夕方以降の不振も響いた。

CVS

既存店10・6％減

4月のCVS売上高は、既存店10・6％減となった。在宅勤務や外出自粛の拡大により客数が18・4％減と落ち込んだ。

一方、冷食やレトルト、酒類などのまとめ買い需要から、客単価は9・5％増（688・3円）と伸びた。

全店ベースでは、売上高10・7％減、客数18・7％減、総店舗数0・2％増（5万5千772店）。既存店のカテゴリー別売上高は、日配13・0％減（構成比35・0％）、加工食品8・5％減（27・6％）、非食品7・5％減（31・5％）、サービス21・8％減（5・0％）。

百貨店

三重苦直撃 7割減 食品は善戦も半減

4月の百貨店売上高は、前年同月比72・8％減。1965年の統計開始以来最大だった前月（33・4％減）の減少幅を、大幅に更新する結果となった。

地区別では、都市部全体で76・0％減。東京76・1％減、大阪78・9％減、名古屋73・2％減など、大都市ではインバウンドへの依存度が高いこともあり、いずれも激減。

外食

全店売上高 40％減 飲酒業態は9割減

日本フードサービス協会がまとめた4月度の全店売上高は、前年同月比39・6％減と調査開始以来、最大の下げ幅となった。休業や営業自粛により、客数が40・1％減と大きく落ち込み、業種別では、パブ・ビアホール96％減、居酒屋90・3％減、ディナーレストラン84％減、喫茶72・4％減（82・9％減、6・3％減）▽喫茶72・4％減（67％減、16・4％減）▽その他50・2％減（58・2％減、19・1％増）。

ファーストフードはテイクアウト需要の増加で洋風が2・8％増と前年を上回ったが、和風15・8％減、麺類54・6％減、持ち帰り米飯／回転寿司21・6％減、その他31・3％減。外食激減の中、テイクアウトや宅配・ドライブスルーなどの対応で2～3割減に踏みとどまった。

ファミリーレストランは洋風59・2％減、和風64・9％減、中華37・7％減、焼き肉69・1％減。中華は餃子などのテイクアウトで落ち込み幅を抑えた。

パブ／居酒屋はパブ・ビアホール95・9％減、居酒屋90・3％減。多くの店舗が休業し、営業継続の店舗も多くの自治体で酒類提供は夜7時までの時短営業を余儀なくされ、壊滅的な打撃を受けた。ディナーレストランも同様。喫茶は商業施設内に加え、ビジネス街立地の休業も響いた。

安倍総理は25日、北海道および首都圏（東京・神奈川・千葉・埼玉）の緊急事態宣言を解除すると表明した。49日ぶりに全都道府県で緊急事態は解除される。今後は各自治体による段階的な緩和措置のもと、社会経済活動の本格的再開に向けて動き出すが、新型コロナウイルス対策の3密回避など「新しい生活様式」が求められ、消費行動の変化も予想される。

緊急事態宣言を解除

休業店舗も順次再開へ

日本製粉 社名を変更

来期から「ニップン」へ

日本製粉は会社名を「株式会社ニップン」に変更する。英文表記はNIPPN CORPORATION。5月25日に開かれた取締役会で、6月26日開催予定の「第196回定時株主総会」での承認を条件に変更することを決議した。

社名変更日は来年4月1日をめどとし、本年9月末日までに開催される取締役会で正式決定する。

同社は1896年に民間で初となる近代的機械式製粉会社として創立。製粉を事業基盤として展開しつつ、食品、中食、ヘルスケアなどグループ会社を含め多角化を推進してきた。

同社では「近年は食をめぐる環境変化に対応し、食品事業の比重が高まっていることから、『製粉』という特定の事業を表現した現在の会社名では当社と当社グループの実情を十分に表さなくなっている。創立以来の会社名を変更することにより、新たに名実ともに多角的総合食品企業として成長することを目指す。従来からの呼称『ニップン』を新社名に用いて、皆さまから親しみを持っていただける会社として、さらなる事業の拡大、発展を図る」としている。

製糖統合 ＜前編＞

三井製糖、大日本明治製糖（以下、DM）、日本甜菜製糖（以下、日甜）は3月25日、経営統合と資本・業務提携の協議開始で合意した。令和も続く砂糖消費の減少で工場稼働率が下がり再び追い込まれる前に先手を打った格好だ。また、白糖は国産糖の保護財源を製糖企業が負担して売価に反映させる「糖価調整制度」の下で流通しているが、こちらも消費減による歪みが露呈し始めている。今回の経営統合（および提携）は市場の縮小対策だけでなく、中長期的な製糖経営と砂糖制度の継続性をも考慮した〝最善手〟を求めた結果かもしれない。狙う効果や背景などを探る。

令和再編に求める〝最善手〟

稼働率だけでない経営対策

製糖企業の悩みは大きい（高甘味度甘味料）。だ。

三井製糖の19年3月期連結売上高1千53億円の更新時期を控えながら、それぞれ同じように稼働率低下に悩みながら生産している。しかし、いつでも準備が整えば、この共同工場も含めて全国をカバーする6工場の生産ネットワークは、顧客に対する安定供給の点からポジションであるだろうし、相応しい事業規模や機能、設備、商品が必要となる。中国での砂糖事業も資本提携から家庭用商品の生産・販売にまで注力している三井製糖にとって安心材料になる。今年の新年コマを進めており、いずれ中国市場で〝スプーン印〟の現地生産品が並ぶことになれば〝世界の三井製糖〟に一歩近づくことになる。国内と世界の事業を両輪として進むために今回の統合話はむしろ必須条件に見えるほどだ。

（後編へ続く）

「セブンプレミアム」累計売上10兆円突破

セブン&アイ・ホールディングスは21日、セブン&アイグループのプライベートブランド（PB）「セブンプレミアム」が07年の販売開始からの累計売上高が10兆円を突破したと発表した。

同社は、今後さらなる社会環境の変化に対応していくためのメッセージとして「セブンプレミアム コネクト宣言」を定め①環境対応②健康対応③上質商品④グローバル対応の強化を柱に商品を提供していく考えを明らかにした。

逆光線

コロナウイルスは5か月間に世界に拡散し、マスコミは第三次世界大戦や世界細菌戦争と表現、その悲惨さを伝えている。死者や被害額は戦争に匹敵するが、大きな違いは対戦国が見えないこと。だから当然、終結宣言も出しにくい▼政府や自治体は生活者に注意喚起を促すに当たり、インターネットを通じた国際報道を意識してか英語を連発。「クラスター」の方が分かりやすい▼本稿ではあえて英語の使い方が間違っているとか、表現が違うなどと指摘するつもりはなく、意味が伝われればそれでいい▼だが、日本語で一部間違って使われているの「収束」と「終息」。大辞泉によれば「収束」は「分裂や混乱がまとまり収まること」、「終息」は「物事が終わりやむこと」。コロナ感染は当面「収束」を目指し、最終目標は「終息」が正しい使い方だろう。

きょうの主な内容
「消費停滞で減収」（砂糖決算特集 4～5面）
「食品安全確保に大きく貢献」（食品検査特集 6～7面）

おいしさをずっと、400年。
ヒガシマル醤油
夏は、やっぱり
ヒガシマルのめんつゆ。
濃縮つゆをはじめ、ストレートつゆ、ぶっかけつゆを揃えた、ペットボトルタイプ。
ひとり分でも気軽にぶっかけうどんができる、ポーションタイプ。
どちらでもお好みの薬味やトッピングで、おいしい夏のめんが楽しめます。
手間をかけずに、今年もおいしく、味わいましょう。
新発売

ポーションタイプ
ペットボトルタイプ
https://www.higashimaru.co.jp/ 播磨の名水&うすくちしょうゆ発祥の地:兵庫県たつの市 ヒガシマル醤油株式会社